

## Consultants

### 更に、魅力ある・社会に貢献する 建設コンサルタントに向けて



野崎 秀則

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 会長

令和5年、明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えつつある中、今こそインフラ事業を通じて地域の魅力を高め、持続可能な社会の形成に繋げる必要があります。また、気候変動に伴って災害が激甚化・頻発化するとともにインフラの老朽化が進む中、防災・減災、国土強靱化をさらに強力に推進する必要があります。この状況に対して、建設コンサルタントは、益々技術を磨き、主体的に役割を担うことが必要と考えます。このような背景のもと、本稿では「更に、魅力ある・社会に貢献する建設コンサルタントに向けて」と題して、特に本年取り組みたい事項について記述します。

#### 魅力ある建設コンサルタント業界の構築に向けて

建設コンサルタンツ協会は、環境改善に向けた自助努力に加え、発注者の皆様との意見交換会を通じて引き続き課題解決を進めたいと考えています。令和4年は従前の「①担い手の確保・育成のための環境整備」「②技術力による選定」「③品質の確保・向上」の3つの柱に、新たに「④DX推進の環境整備、成長と分配の好循環の実現」を加え、要望と提案を取り纏め意見交換会に臨みました。ここでは、新たに加えた④について記述します。

国土交通省においては、令和5年度からBIM/CIMを原則適用する方針が示されています。これに対して、BIM/CIMの標準歩掛の整備や経費の計上、DXの推進に向けたハード・ソフトの費用面での支援が課題となっています。また、政府方針の「成長と分配の好循環の実現」の一環として、国土交通省においては「総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置」を施行しています。建設コンサルタンツ協会においてもこの方針に積極的に取り組みたいと考えています。ただし、この取り組みが継続する場合は、企業経営に対する影響が懸念されるため、その環境整備として、インフラ事業の維持・拡大、設計業務委託単価の継続的引き上げ、調査基準価格の引き上げ等が必要と考えます。この課題解決に向けて令和5年も取り組んで参りたいと考えます。

#### 社会に貢献する技術集団に向けて

社会に貢献する技術集団として、特に次の2つの取り組み

みを推進したいと考えます。

1つ目は「DX推進」への貢献です。建設コンサルタンツ協会においては、令和3年度から「DXの推進」について4つのテーマを掲げ、取り組みを進めています。テーマ1では「受発注者協働による働き方改革」として、建設コンサルタント業務を契約段階、業務遂行段階、納品段階に分け、受発注者協働による働き方改革に資する取り組みを検討しています。テーマ2では「i-ConおよびBIM/CIMの推進」として、国土交通省において令和5年度からBIM/CIMを原則適用する中で、建設生産システム全体の生産性向上に貢献する取り組みを検討しています。テーマ3では「街づくり・地域づくりのDX推進」として、デジタル技術を駆使し、対象エリアのインフラや公共サービス等の最適化に貢献する取り組みを検討しています。テーマ4では「会員企業のDX推進」として、経営や業務の変革に向けて会員企業のDX導入の底上げに向けた取り組みを検討しています。

2つ目は「アフターコロナ社会」への貢献です。新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域社会や経済は大きな影響を受けました。これに対して、テレワーク等を活用した新たな働き方・暮らし方やカーボンニュートラルを含めたSDGs達成への取り組みを念頭に、地域の魅力を高め、持続可能な社会づくりが求められています。これに対して、建設コンサルタンツ協会は「インフラ整備構想の策定」について検討を進めています。過去に、近畿支部、関東支部及び東北支部において提言を公表しましたが、この取り組みの一環として令和4年末には、西日本4支部において「西日本インフラ整備構想」、北海道支部においては「建設コンサルタントが考える北海道の将来の社会資本整備のあり方」（中間概要提言書）を提言として公表しました。この取り組みを全国に広め、アフターコロナのよりよい社会づくり・地域づくりに貢献できると考えます。今後も効果的な取り組みに繋がるよう進めて参りたいと考えます。

建設コンサルタントは、多様化・複雑化する社会課題に対して、インフラや街づくり・地域づくりの最適化に向けて貢献することが使命であり、魅力と考えます。今年が建設コンサルタントにとって飛躍の年になればと考えます。皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。